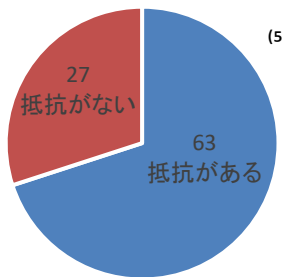


私たちとAIの共存

宮城県仙台第三高等学校 G4班

1. 序論

近年、AIは目覚ましい発展を遂げ、我々の身の回りの様々なものに導入されはじめている。しかし、AIの導入には多くの問題がある。特に大きな問題がAIに対する不信感である。右のグラフからもわかるよう、AIと共に生活することに抵抗を感じている人は多い。このことから、我々人間がAIと共存するにはどうしたら良いのか研究したいと思った。



仕事のパートナーとしてのAI

2. AIについて

現在国内外で行われている、AIの活用事例からヒントを得て先行研究をもとにこれから自分たちがどのようにAIを活用するのかを思考する

具体例

<国内>

- ・車の全自動運転⁽¹⁾
- ・監視カメラ、予測センサー機器等の精度向上⁽¹⁾
- ・商品の在庫管理(特にネットショッピングにて)⁽¹⁾
- ・旅行会社などにおけるおすすめ情報の提案⁽¹⁾
- ・介護施設における全面的な職務のサポート⁽¹⁾

<海外のみ>

- ・新薬剤の配合研究、製造⁽⁴⁾
- ・法律文書など重要文書のミスチェック⁽³⁾
- ・古代文字の解読⁽²⁾
- ・無人化した兵器の導入検討⁽¹⁾

メリット・デメリット

メリット	デメリット
様々な分野に適応して活躍	AIの導入による失業者の増加
休むことなく使用可能	AIのミスの責任者がいない
危険な場所での作業にも適する	予測不能の事故の可能性がある
学習能力が高い	導入へのコストがかかる
一度導入すればお金の節約になる	
ミスが少なく、仕事も早い	

先行研究

『 ▼ AIの限界

- 入出力および正解は人間が定義
- 学習には、大量の偏りのないデータが必要
- 正解からどの程度かい離しているかを数値的に測る必要

▽人間の相対的強み

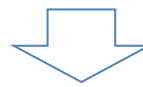
- 入出力・正解が定義できない問題への対応
- 個別性が高く、大量なデータが集められない問題への対応 』

【OPINION PAPER

AI時代の人間の営み 経営のありかた】より

4. まとめ・結論

私たちは人間とAIはどう共存するかというテーマで研究を行ってきた。人間とAIが共存するためには、AIに対する不信感を取り除くのはもちろんのこと、それに加えて、人間の仕事とAIの仕事を区別することが重要であることが分かった。人間はものを創造することや特異性の高い仕事を、AIは単純作業をすることに向いている。そのため、それぞれの長所を生かすことが大切な点である。このことから、AIを多用するのではなく、適材適所に配置することにより、失業者の増加なども免れ、仕事の効率も良くなる。



よって、人間とAIの共存は可能であり、これからの社会では多くのAIが導入され、共存していくことが普通になってゆくと考える。

3. 結果・考察

先行研究、メリット、デメリットをもとにAIに仕事とどう関わらせていくかを考える。

AIは事務処理の能力が高いことや、人がなしえない速さで決められた仕事をこなすことができることが分かった。そのため、膨大な数の計算を必要とする会社の会計の仕事や、名簿の管理などの仕事に向いていると言えるだろう。

反対に、AIは思考したり新たなアイデアを出したりすることが苦手なので、クリエイター系統の仕事には向いていない。

向いている仕事	向いていない仕事
・事務処理などの単純作業 例) 工場での商品の品分け ・大量のデータの処理 例) 病院でのカルテの管理 etc...	・自ら創造する仕事 例) 作家、会社の企画課 ・特異性の高い仕事 例) 経営、接客業 etc...

【 考察 】

わたしたち人間がAIを使用して仕事や日常生活を送ることに抵抗がある人は多い。

しかし、今回の研究結果よりAIにも、人間にもそれぞれ得意な分野、劣る分野があるため工夫次第でお互いがお互いの利点を最大限に生かすことができると思われる。



人間のAIに対する恐怖心や不信感を少しでも取り除けるように工夫すればいい。



AIが苦手な創作系統などの仕事をAIに任せられるように技術開発するのではなく、現状においてAIができるとわかっている仕事をAIに任せること、すなわち人間とAIの仕事を区別することが大切だと考える。

参考文献

- ⁽¹⁾<https://www.ibm.com/watson/jp-ja/use-cases/> ⁽²⁾https://nissenad-digitalhub.com/articles/tensorflow_case2/
- ⁽³⁾<https://nissenad-digitalhub.com/articles/ai-financial-cybersecurity-japan/> ⁽⁴⁾<https://nissenad-digitalhub.com/articles/ai-medical-global/>
- ⁽⁵⁾www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01iicp01_02000072.html